

媒体名	ヘルスライフビジネス	掲載日	2010年7月1日号
タイトル	原料ニュース「急増する過敏性腸症候群に挑む」		

急増する過敏性腸症候群に挑む

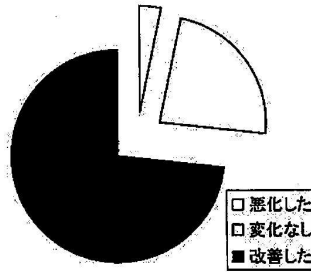
プロピオン酸菌

ニュートリション・アクト

ストレスや過労などによって自律神経のバランスを崩し、腸内環境の悪化を招くことで下痢や便秘などの症状を引き起こす過敏性腸症候群（以下、IBS）の患者が年々増え続けている。ニュートリション・アクト（東京都港区）は03・5475・7313（以下は同じ）でストレス性のIBSに対して、同社が扱う「プロピオン酸菌」が有効な解決策の一つになりうるとしている。

うつ病患者の増加や自殺者の増加が社会問題となる中で、ストレス性のIBS患者数も増加傾向にあり、現在その数は推定で1200万人とも言われている。I

腸の心地よさ：下痢グループ



BSは、不規則な生活習慣やストレスなどによって自律神経、腸管神経のバランスを崩し、便秘異常を引き起こす機能性疾患のこと。現在、治療法として「精神療法」と「腸内環境改善」などが提案されている。同社の「プロピオン酸菌」は、この腸内環境の改善に効果があると思われる。

研究によると、人によって腸内のビフィズス菌に違いがあり、プロピオン酸菌は、腸内に住む個々人の固有のビフィズス菌を選択的に増やす働きがあることが分かっている。その働きにより、腸内環境の改善やミネラル吸収の向上、大腸がんの予防などの作用が期待

される。同品はフランスのメーカーと仏国立研究機関の共同研究で開発されたもので、数百種類あるプロピオン酸菌の中から健康効果の高い2種類の菌を混合した菌粉末。

同品の最大の特長は、一時的な便通の改善や痛みを抑えるというのではなく、「個々人がそれぞれ持っている固有のビフィズス菌を増加させることによる腸内改善で、慢性的な便通の改善に期待できるという点だ。」

担当者は、「研究データやエビデンスも豊富な商材だが、とにかく体感が非常に良いという声が多く寄せられている。実際に深刻な機能性疾患で悩む方に採取して頂き、かなりの調子が良くなったとの声も聞いている。プロピオン酸菌による腸内改善によって、IBSで慢性的な便通の不調に苦しむ人の役に立てればと思っている」と語った。

同品はヒト由来の様々なビフィズス菌を増加させることが確認されており、7種類のビフィズス菌と同品を混ぜて培養した試験では9時間後に全てのビフィズス菌が10〜100倍に増加した。また、国内の研究機関で行われた試験では、他社商品と比較してビフィズス菌がより増加することも確認されている。

フランスで実施された2006年の臨床試験では、便秘が下痢を悩む60人を対象に60日間、プロピオン酸菌の経口摂取を行った。この結果、下痢・便秘両方の人で約8割が腸や便通の改善を体感すると答えた。【グラフ参照】。